

町田市指定天然記念物 アカガシ群落

所在 町田市相原町704

指定 1964年(昭和39年)11月25日

清水寺境内の常緑樹林群落は、樹齢約300年を越える巨木が社叢林を形成しているだけでなく、町田市内に広く分布しているシラカシやアラカシにまじって、アカガシ・ツクバネガシ・オオツクバネガシ・ヒメアカガシなど、特筆される希少なカシ類を含んでいることから、アカガシ群落全体が町田市天然記念物に指定されています。1959年に実施された南多摩文化財総合調査において当地の植物調査を行った東京大学の本田正次教授(1897-1984)は、清水寺のアカガシ群落内のカシ類の多様性に注目し、高尾山を基準産地とするオオツクバネガシとの関連も指摘しながら、横浜から報告されていたアカガシの変種ヒメアカガシが含まれているものと結論づけました。

現在、境内には純粋なアカガシを見つけることはできませんが、アカガシに近似したオオツクバネガシやツクバネガシ、ヒメアカガシなど希少な常緑性のカシ類が混生して生育しています。同様の樹種は、市内では相原地区周辺だけに特異的に分布しており、同地区内の諏訪神社、行昌寺、長福寺などにも見ることができますが、群落としての規模は清水寺社叢林が卓越しており、当地の潜在自然植生の断片を示すものとしても大変貴重なものと考えられます。

なお、これらのカシ類は、常緑の葉と、堅果を支える殻斗(ドングリの皿部)に環状紋を持つことで共通し、分類学的にブナ科アカガシ亜属としてまとめられています。

数百年の間、鎮守の杜の中で生き残ってきた希少なアカガシ群落の良好な生育地として、将来にその社叢が繁栄することができるよう、地域の皆様のご理解、ご協力をお願いする次第であります。

《アカガシ群落内に見られるカシ類の種類と学名》

- ・シラカシ *Quercus myrsinaefolia* Blume (町田市内全域に普通に分布)
- ・アラカシ *Quercus glauca* Thunb. ex Murray (町田市内全域に普通に分布)
- ・ヒメアカガシ *Quercus acuta* Thunb. var. *yokohamensis* (Makino), Nakai
(町田市内では相原以西のみに分布し、きわめて希産)
- ・ツクバネガシ *Quercus sessilifolia* Blume (町田市内では相原以西に、ごくまれに分布)
- ・オオツクバネガシ *Quercus sessilifolia* × *takaoyamensis* Makino
(町田市内では相原以西に、ごくまれに分布)



ヒメアカガシ

◆特徴: 葉は8-15cm、幅は1.7-3cm、卵状楕円形または長楕円形で先端は長く尾状に突出する。葉縁は通常ない。葉柄は先端まで直線状。葉柄は明確で8-23mm。アカガシの変種で、葉の小葉化したものと考えられているが、オオツクバネガシの1タイプと考えることもできる。

ツクバネガシ

◆特徴: 葉は5-12cm、幅3-4cm、長楕円形または倒披針形。先は鋭く尖り、葉縁は先端部だけに出るか、または全縁。葉縁は可変。葉の基部はくさび形で葉柄は短くはつきりしない。

オオツクバネガシ

◆特徴: 葉は長さ9-17cm、幅2.5-5cm、形状はアカガシとツクバネガシの中間的な形質を示し、卵状楕円形から長楕円形、倒披針形まで変化が多く、葉縁は先端付近に出る場合がある。葉柄はほとんどないものから、1.5cm程度で明確なものまで変化が大きい。アカガシとツクバネガシの雑種と考えられている。

2009年5月 町田市教育委員会

生涯学習課文化財係

042-724-2554